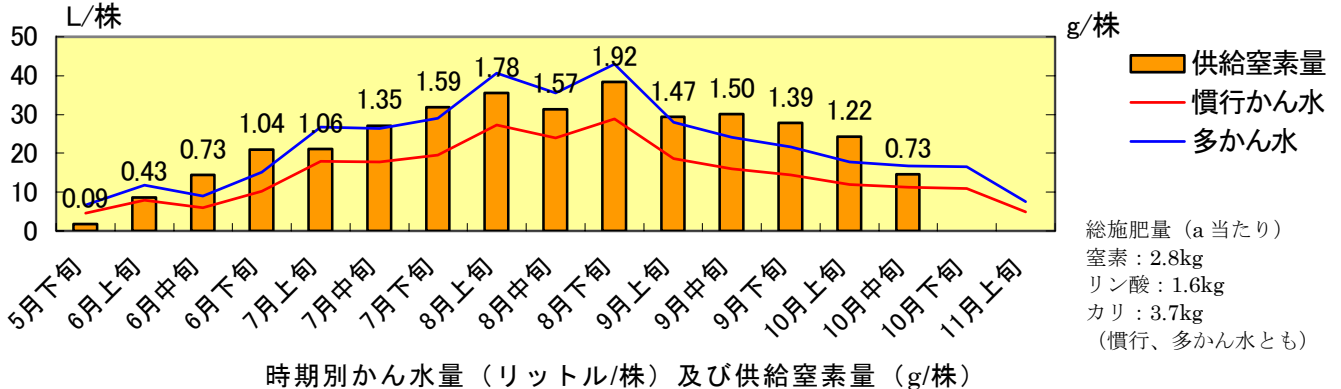


夏秋トマト不織布ポット栽培におけるかん水効果

【1 成果の概要】

夏秋雨よけトマトの不織布ポット栽培において、慣行と比較して5割増のかん水（盛夏時4.5リットル/株/日、総量380リットル/株）を行うことにより、商品果の収穫量が増加します。



【2 効果】

- 5割増のかん水により、商品果の収穫量が「桃太郎8」では800kg/aから900kg/aへ、「桃太郎なつみ」では800kg/a以下から1,000kg/a以上に、それぞれ増加します。
- かん水量を増加させることにより糖度はやや減少しますが、糖度5以上を概ね確保できます。



不織布ポット栽培の様子

【3 この技術を上手に使うには】

- トマト不織布ポット栽培は、水稻育苗施設などのハウスの有効利用を図る際に、慣行の土耕栽培よりも定植時期が遅れるため、収穫量は劣ります。
- 実際のかん水量については、気象条件や生育、使用する培地の種類などにより、適宜調整する必要があります。

【4 こんな場面に使います】

ハウスの床に置くだけなので水稻育苗施設などのハウスを有効活用して夏秋トマトを栽培することができます。

